

2021年10月7日
株式会社 愛知銀行

地銀共同センター提携範囲拡大の具体的取組み
「ナレッジ インタラクション ワークショップ」への参加について
～参加行との知見共有により業務革新を加速～

株式会社愛知銀行（頭取 伊藤 行記）は、地銀共同センター参加行^(※1)（以下「参加行」）と、株式会社NTTデータ（代表取締役社長 本間 洋、以下「NTTデータ」）が共同で立ち上げる「ナレッジ インタラクション ワークショップ」（以下「本ワークショップ」）へ参加しますのでお知らせいたします。

当行を含む参加行は、本ワークショップに参加することで、他の参加行が検討・実施してきたさまざまな取組みに関するアイデアやノウハウ等を相互に共有し、ベストプラクティスを自行の業務革新等の施策へ反映させることが可能になります。

当行は今後も、参加行ならびにNTTデータの連携枠組みを活用し、システム領域に留まらず共通する課題を解決し、さらなる価値拡大に向けて積極的に取り組んでまいります。

（※1）青森銀行、秋田銀行、岩手銀行、千葉興業銀行、福井銀行、京都銀行、池田泉州銀行、鳥取銀行、山陰合同銀行、四国銀行、大分銀行、西日本シティ銀行、愛知銀行の全13行（銀行コード順）。

記

■ ナレッジ インタラクション ワークショップの概要

【背景・目的】

参加行とNTTデータは、2020年9月に事例共有会を立ち上げ、これまで各行が取り組んできたさまざまな業務改革事例等を共有してまいりました。

今回、参加行の提携範囲を拡大し本ワークショップへ発展的に移行することで、ITガバナンスやIT人財育成プログラム等、より広範な議論を行い、システム領域に留まらない共通課題の解決を目指します。

<参考：これまで取り上げた事例>

	取組み事例
1	融資実行の集中化の取組み
2	タブレット端末を用いた業務改革の取組み
3	業務連携基盤の活用による既存業務のコスト削減
4	為替集中システムの共同導入・活用
5	先進的ワークスタイルへの新たな取組み
6	「intra-mart ^(※2) 」を活用したペーパーレス化の実現
7	営業店業務改革による、おもてなしとコンサルティング強化の取組み
8	長期的なIT基盤戦略としてのデータセンター活用
9	IT投資効果の可視化にかかる新たな取組み
10	本店建替えによるワークプレイス/ワークスタイル変革
11	検査業務見直しによる営業店業務の効率化

(※2) 企業内に存在する様々な業務システムを同一のプラットフォーム上に集約し、最新のデジタル技術を活用することで、IT投資の効率化と業務プロセスの最適化・標準化を実現するサービス。<https://www.intra-mart.jp>

【開催頻度】

月に1回程度

【情報共有方法】

本ワークショップで相互に情報共有した取組み事例等は、「デジタルナレッジサイト」^(※3)に掲載され、担当者のみならず参加行の行員が参照できます。

(※3) NTTデータが地銀共同センター参加行に提供する共通プラットフォームで、現在は参加行の行員のデジタルスキル向上のための動画や資料が掲載されている。



以上